

特定小電力タイプ1mW送受信機

【RC - 426T】

【RC - 426SW - R】

V1.7

取扱説明書

ヘルツ電子株式会社

〒433-8103 静岡県浜松市豊岡町6-2-1

TEL053-438-3555 FAX053-438-3411

この度は、弊社の特定小電力タイプ1mW送受信機 【RC - 426T】
【RC - 426SW - R】をご導入いただき誠にありがとうございました。
本機をお役に立てていただくために、本説明書を充分にお読み下さいますよう
お願い申し上げます。

また、増設ユニット【HSW - 01】をご使用の場合は、別途【HSW - 01】
取扱説明書を併せてご覧ください。

安全で快適にお使いいただくために

(必ずお読みください)

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このマニュアルでは、誤った取り扱いによる事故を未然に防ぐための注意事項を説明しています。

絵表示の意味をよく理解した上でお読みください。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体が傷害を負う可能性又は物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区別し、説明しています。



この絵表示は気を付けていただきたい「注意喚起」の内容です。



この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。



注意

全てに共通の取り扱いについて

湿気・ほこりの多い場所での使用は避けてください。ほこりや水分が入り、故障・火災・感電の原因となることがあります。



本機の取り扱いについて

本機は、精密部品で作られた電子機器及び無線通信機器です。分解・改造はしないで下さい。事故や故障の原因となります。



警告

本機の取り扱いについて

本機の故障や誤作動が人命又は財産に危害を及ぼす恐れのある、極めて高い信頼性を要求される用途にはご使用にならないで下さい。



電波が届くか届かない曖昧な範囲ではご使用にならないで下さい。





警告

電源の取り扱いについて

AC アダプタ・電源コードの発熱、損傷、破損、発火などの防止のため、次のことは必ずお守りください。

AC アダプタ・電源コードを火に近づけたり、火の中に入れて下さい。 AC アダプタ・電源コードが破裂・発火して事故の原因になります。	
AC アダプタ・本体は、破損・発火事故防止のため、指定された電源電圧以外では使用しないで下さい。	
濡れやすい場所で、AC アダプタ・本体を使用しないで下さい。 発熱・発火・感電などの事故や故障の原因となります。	
濡れた手で AC アダプタ・本体・電源コード・コンセントに触れないで下さい。 感電などの事故の原因となります。	
電源コードを破損させないで下さい。 ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。	
電源プラグにほこりが付着したままで使用しないで下さい。 ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。	
AC アダプタに強い衝撃を与えないで下さい。 事故や故障の原因になることがあります。	
AC アダプタの変形などに気づいたら、使用しないで下さい。 事故や故障の原因になることがあります。	
引火性ガスが発生する場所では、本体を使用しないで下さい。 発火事故などの原因になります。	
絶対に AC アダプタを分解しないで下さい。 事故や故障の原因になることがあります。	

使用中に異常が発生したときは

火災・感電などの原因となりますので、電源プラグをコンセントから抜いて販売店又は弊社宛修理を依頼して下さい。

煙が出たり、変な臭いがするときは使用を中止し、直ちに電源プラグをコンセントから抜いて販売店又は弊社宛修理を依頼してください。	
電源コードが傷んだら使用しないで下さい。 そのまま使用すると火災や感電の原因になります。	

本機からの電波により、誤動作する可能性のある装置の近くでは使用しないでください。

本機は日本国内専用です。電波法が異なる為、国外では使用できません。

通信性能は周囲の環境によって大きく変化しますので、設置前に通信可能であることを確認のうえ使用してください。

目 次

1 . 概 論	1
1 - 1 適 用	1
1 - 2 概 要	1
1 - 3 構 成	1
1 - 4 特 長	2
1 - 5 システム構成図	2
2 . 仕 様	3
2 - 1 無線部	3
2 - 2 一般	4
3 . 各部の名称	5
3 - 1 RC - 4 2 6 T	5
3 - 2 RC - 4 2 6 SW - R	7
4 . 出力 【RC - 4 2 6 SW - R】	8
5 . 動作タイミング	9
6 . 寸法図	10
6 - 1 RC - 4 2 6 T	10
6 - 2 RC - 4 2 6 SW - R	11
7 . 通信周波数の設定【RC - 4 2 6 T】	12
8 . 機器番号の設定【RC - 4 2 6 T】	13
9 . ユニット番号の設定【RC - 4 2 6 T】	14
10 . 通信周波数の設定【RC - 4 2 6 SW - R】	15
11 . ディップスイッチの設定【RC - 4 2 6 SW - R】	16
12 . 動作説明	18
13 . 出力テスト【RC - 4 2 6 SW - R】	21
14 . 設置方法	22
15 . 乾電池のご使用について	23
16 . 注意事項	24

概論

1 - 1 . 適 用

本説明書は、1 mW特定小電力タイプ送信機【RC - 426T】、受信機【RC - 426 S W - R】に適用します。

1 - 2 . 概 要

本機は、複数の場所に設置された送信機からのON・OFF信号を1台の受信機で受信し、モニターLEDで表示するとともに端子台よりオープンコレクタ出力するシステムです。

異常信号の収集、ワイヤレス呼び出しシステム等に利用できます。

受信機を1台使用することにより8台の送信機の2点の信号の収集、又は16台の送信機の1点の信号の収集ができます。

又、オプションの増設用ユニット〔HSW - 01〕を2台まで、接続することができ、MAX48台の送信機のON・OFF信号を受信することができます。

電波による伝送方式のためケーブルが不要となり広範囲の信号の収集が容易にできます。

特定小電力無線局を使用しているため、ノイズに強く遠距離通信ができます。

(見通し距離：約100～150m)

データを1ヶ所で集中して把握することができ、生産の合理化に大きな効果をもたらします。

1 - 3 . 構 成

送信機は、 の押しボタンスイッチを持ち、単四乾電池2本で動作します。

受信機は16点の出力用端子、内部処理及び通信処理を行うCPUユニット、特定小電力無線受信専用ユニットを1つのケースに納めた構成となっています。

概論

1 - 4 . 特 長

通信チャンネルを1ch～10chまで設定できます。

送信機と受信機ともに個別に変更可能です。

セット番号、ユニット番号及び機器番号それぞれ(1 ~ 8)の設定が可能です。(注1)

最大8台の送信機の2点の信号を受信機1台で受信できます。

(1点の場合は16台)

オプションの増設用ユニット〔HSW-01〕を接続することにより、最大24台の送信機の信号を受信できます。(1点の場合は48台)

送信機は、2点の押しボタンスイッチを持った軽量、コンパクト設計で携帯性にすぐれています。

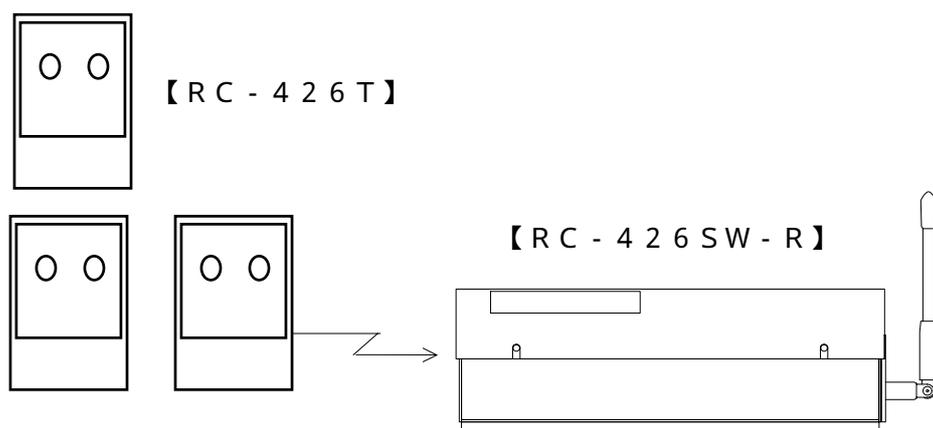
通信は、専用マイコンによる誤り検定方式を取っている為、誤動作が少なく信頼性の高い通信が得られます。

1mWタイプの特定小電力無線を利用している為、通信距離が確保できます。

(見通し100m～150m)

(注1)セット番号、ユニット番号及び機器番号は出荷時設定となっています。ご購入時に指定して下さい。万一、変更の必要がある場合には弊社までご連絡ください。

1 - 5 . システム構成図



仕様

2 - 1 . 無線部

項目	仕様
装置種別	ARIB STD - T 6 7 (1 . 0 版) に準拠する特定小電力無線局 (特定小電力無線局テレメータ用、テレコントロール用及びデータ伝送用無線設備) 【 R C - 4 2 6 T 】のみ適用
使用周波数	4 2 6 . 0 2 5 0 M H z ~ 4 2 6 . 1 3 7 5 M H z (1 2 . 5 k H z ステップ 1 0 波 ディップスイッチまたはロータリースイッチで切替) 【 R C - 4 2 6 T 】 【 R C - 4 2 6 S W - R 】共通
電波形式	F 1 D 【 R C - 4 2 6 T 】 【 R C - 4 2 6 S W - R 】共通
空中線電力	1 m W 以下 【 R C - 4 2 6 T 】のみ適用
アンテナ	【 R C - 4 2 6 T 】は内蔵 【 R C - 4 2 6 S W - R 】は / 4 ホイップアンテナ
変調方式	直接 2 値 F S K 【 R C - 4 2 6 T 】のみ適用
変調速度	9 7 7 b p s 【 R C - 4 2 6 T 】のみ適用
通信方式	単向通信方式による間欠通信 (注 1) 【 R C - 4 2 6 T 】のみ適用
その他	送信時間制限 : 送信時間 3 秒以内、送信休止時間 2 秒以上 (注 2) 【 R C - 4 2 6 T 】のみ適用

注 1) 「単向通信方式」とは、単一の通信の相手方に対し、送信のみを行う通信方式です。

注 2) 本機は、電波を発射してから送信時間内にその電波の発射を停止し、かつ、送信休止時間を経過した後でなければその後の送信を行いません。

(この機能は、本機が「特定小電力無線局テレメータ用、テレコントロール用及びデータ伝送用無線設備」として技術基準適合証明を受けるために必要なものです。)

仕様

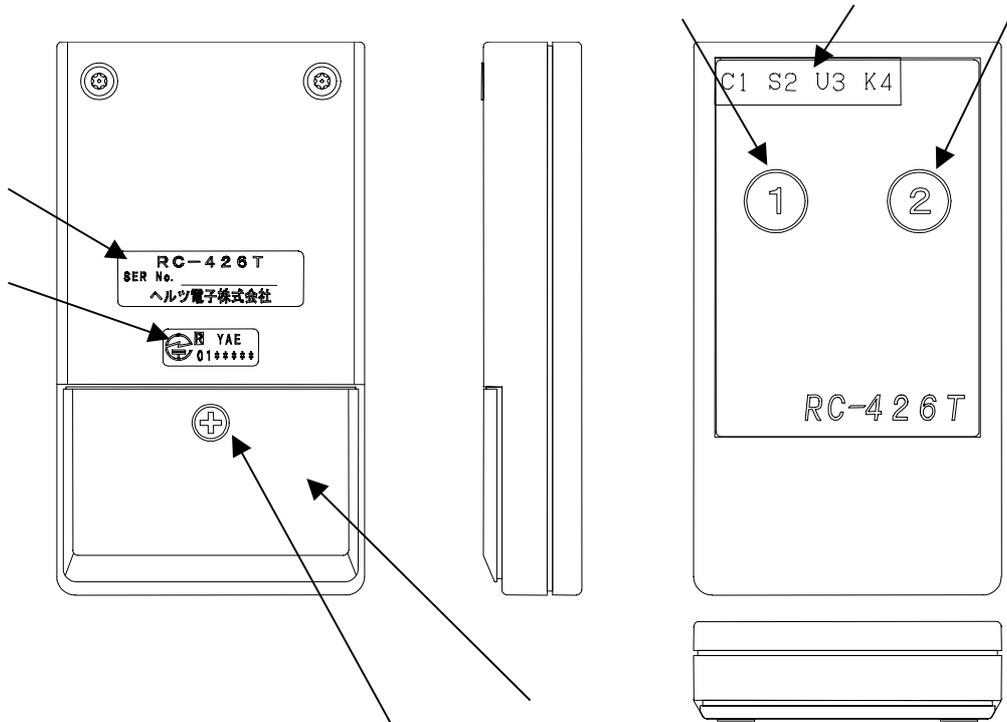
2 - 2 . 一般

項目	R C - 4 2 6 T	R C - 4 2 6 S W - R
入力キー	押しボタンスイッチ × 1 押しボタンスイッチ × 1	
入出力端子		オープンコレクタ出力 × 1 6 最大耐圧 D C 3 5 V 最大定格電流 5 0 m A
表示素子	ブザー × 1 (動作確認用)	PW (赤色 LED) × 1 CD (緑色 LED) × 1 赤色 L E D × 1 6 (モニター用)
電源	単 4 型乾電池 × 2 (動作電圧 2 . 3 V 以上)	A C 1 0 0 V
消費電力	送信時 : 2 0 0 m W 以下 送信 2 秒休止時 : 3 0 m W 以下	約 1 0 W
外形寸法	約 5 8 W × 1 0 5 D × 1 8 . 5 H mm (突起物を除く)	約 1 9 5 W × 1 0 2 D × 6 1 H
重量	約 1 0 0 g (乾電池を含む)	約 1 . 2 k g
使用環境	温度 : 0 ~ + 5 0 湿度 : 2 5 % ~ 8 5 % (但し、結露なきこと)	温度 : 0 ~ + 5 0 湿度 : 2 5 % ~ 8 5 % (但し、結露なきこと)
付属品	単 4 型乾電池 × 2 取扱説明書 (本書) × 1	

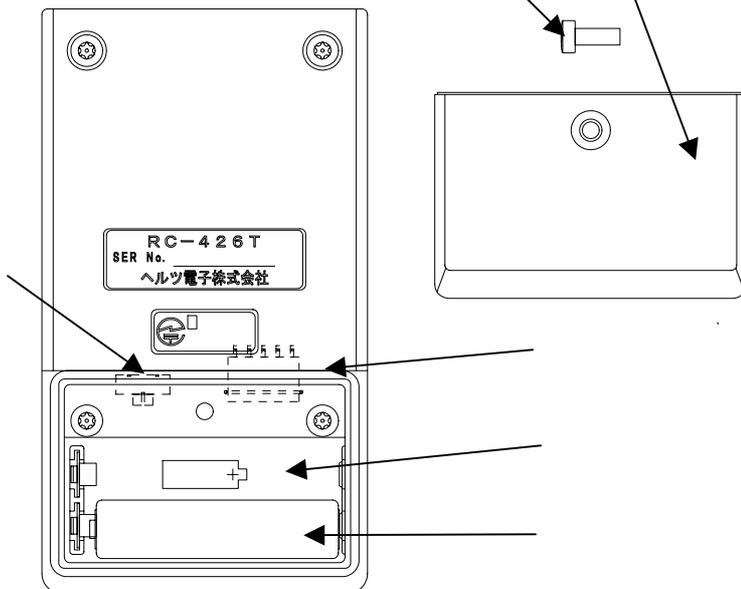
各部の名称 【RC-426T】

3. 各部の名称

3-1. RC-426T



電池蓋を外した図



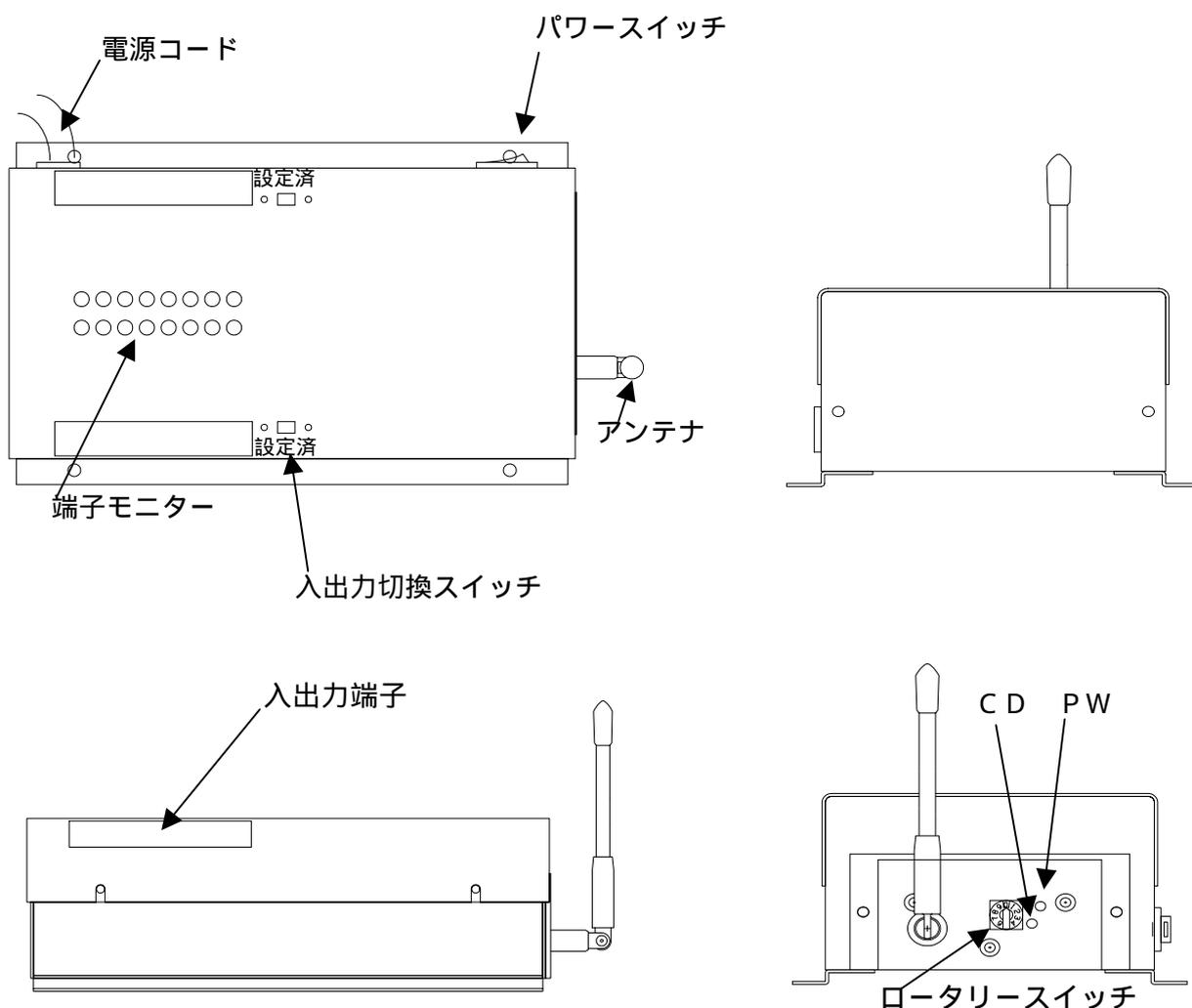
各部の名称 【RC - 426T】

番号	名 称	機 能
	押しボタンスイッチ	押している間 のコード信号を送信します（約1秒送信後2秒休止） 設定スイッチを入れたとき機器番号の設定
	押しボタンスイッチ	押している間 のコード信号を送信します（約1秒送信後2秒休止） 設定スイッチを入れたときユニット番号の設定
	製番ラベル	モデル名と製造番号を記載してあります ラベルの内側にブザーの穴が空いていますので剥がさないでください
	技術基準適合証明ラベル	技術基準適合証明番号が記載してあります 法律の規定により剥がして使用することが禁じられています
	機器識別ラベル	出荷時のチャンネル番号、セット番号、ユニット番号、機器番号の順に記載しています（セット番号が付かない時、セット番号は“0”となります）（注1）
	電池蓋	電池を取り替えたり設定を変更するとき開けます
	止めネジ	電池蓋を止めているネジですプラスドライバー # 2 が適合します
	設定スイッチ（スライド）	機器番号・ユニット番号を変更するとき使用します
	ディップスイッチ	チャンネル設定と機器番号・ユニット番号を変更するとき数値の入力に使用します
	電池挿入方向表示	この刻印に合わせて電池を装填します
	電池	単4電池を2本使用します 長期間使用しないときは電池を抜いてください

（注1）セット番号は出荷時、固定です。

各部の名称 【RC - 426SW - R】

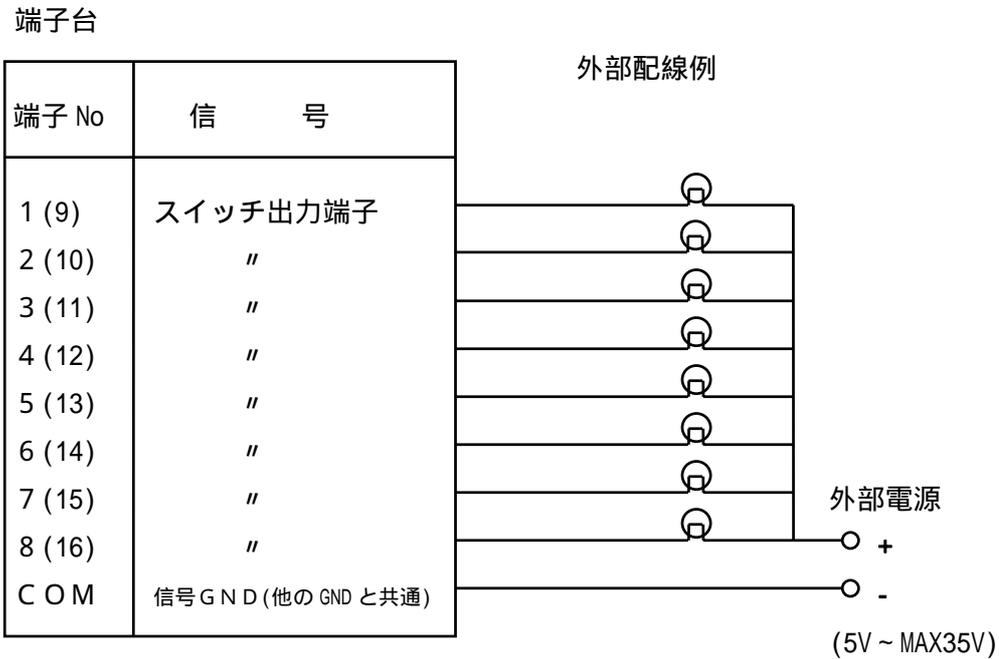
3 - 2 . RC - 426SW - R



- | | | |
|-----------|------------------------------------|----------------|
| 電源コード | : AC100Vに接続します | PW: 電源モニターLED |
| パワースイッチ | : 電源投入用スイッチ | CD: 受信中モニターLED |
| 入出力端子 | : 入力又は、出力用端子 | |
| 入出力切換モニター | : 切換スイッチのモニター (本機では赤点灯となります) | |
| 入出力切換スイッチ | : 本機の場合はOUTに設定 (通常、設定済シールを貼ってあります) | |
| ロータリースイッチ | : チャンネルを設定するスイッチ | |
| 端子モニター | : 端子状態のモニターLED | |

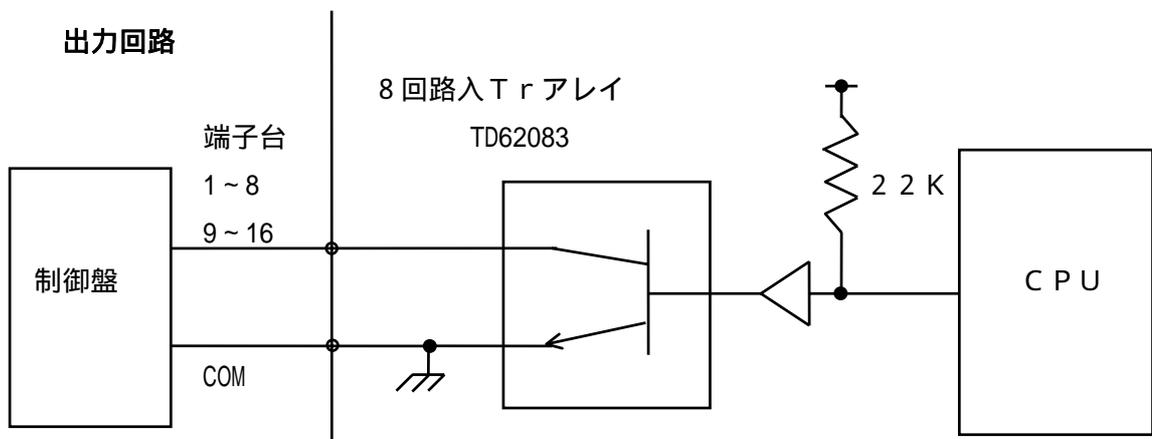
出力 【RC - 426SW - R】

4 . 出力【RC - 426SW - R】



注) ランプ等を直接駆動した場合は、ON時のラッシュカレントにより通常の約10倍の電流が流れますので注意が必要です。(場合によっては本機内蔵のドライブ回路が破損する恐れがあります)

端子1ヶ当たりの電流はMAX50mAですのでドライブ回路を設けないとランプの種類によっては点灯しない場合もあります。



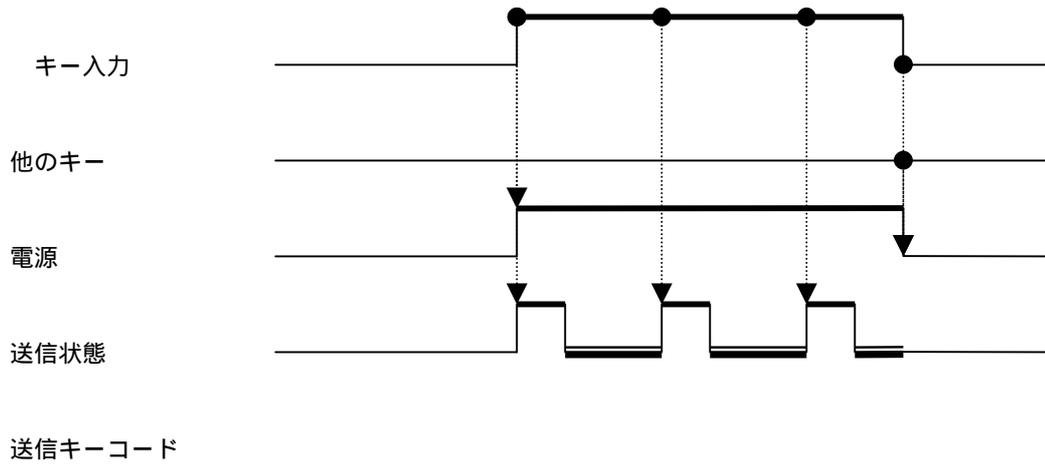
動作タイミング

5. 動作タイミング

タイミングチャート

入力、電源、送信状態、及びコード送信のタイミングチャート例を示します。

例1) 単一キー入力の場合



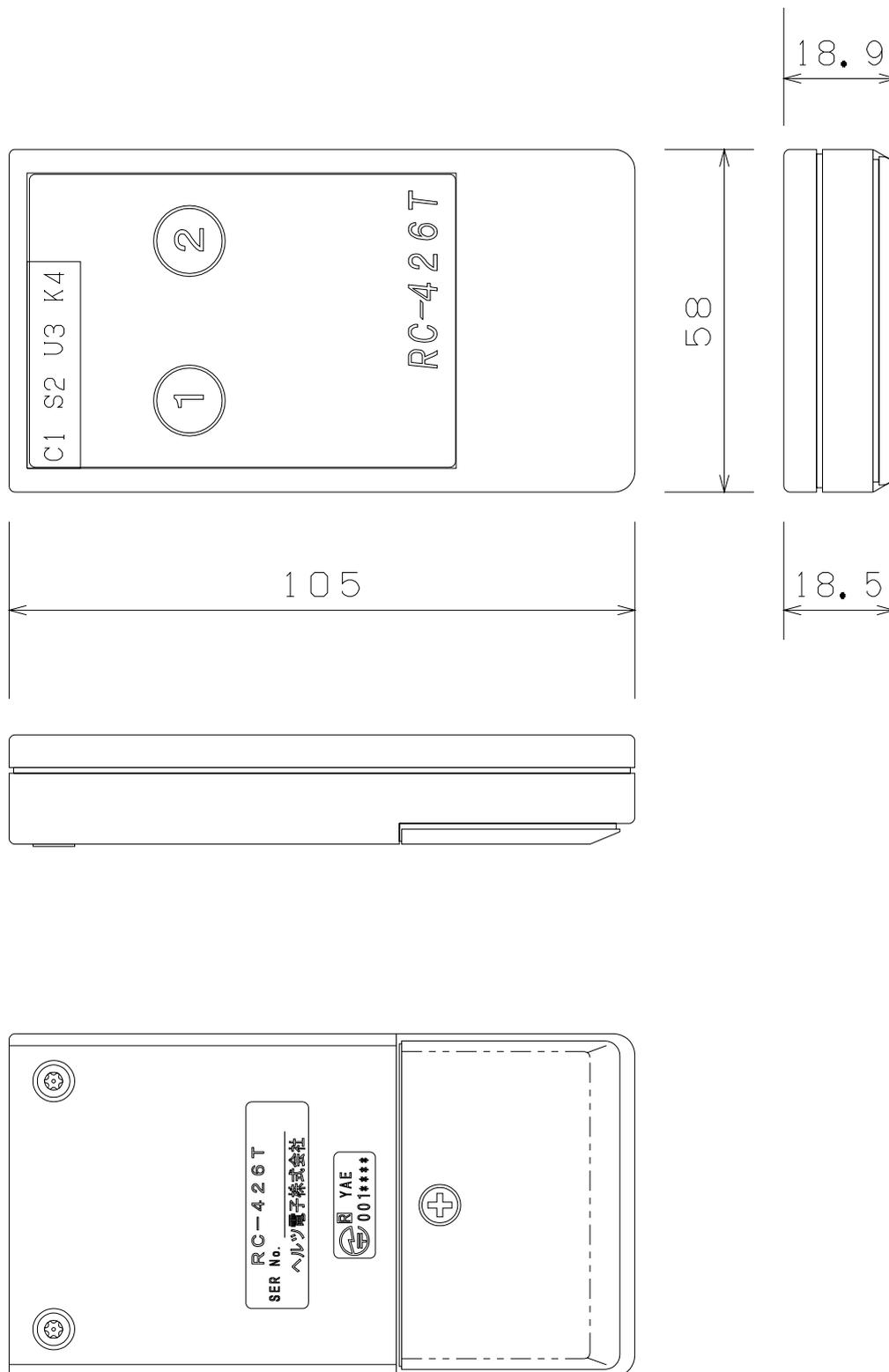
キー及び端子入力の検出

チャタリングチェック時間 (5 0 m s e c) の間全ての入力状態に変化が無ければこの時の入力状態を入力値とします。

寸法図 【RC - 426T】

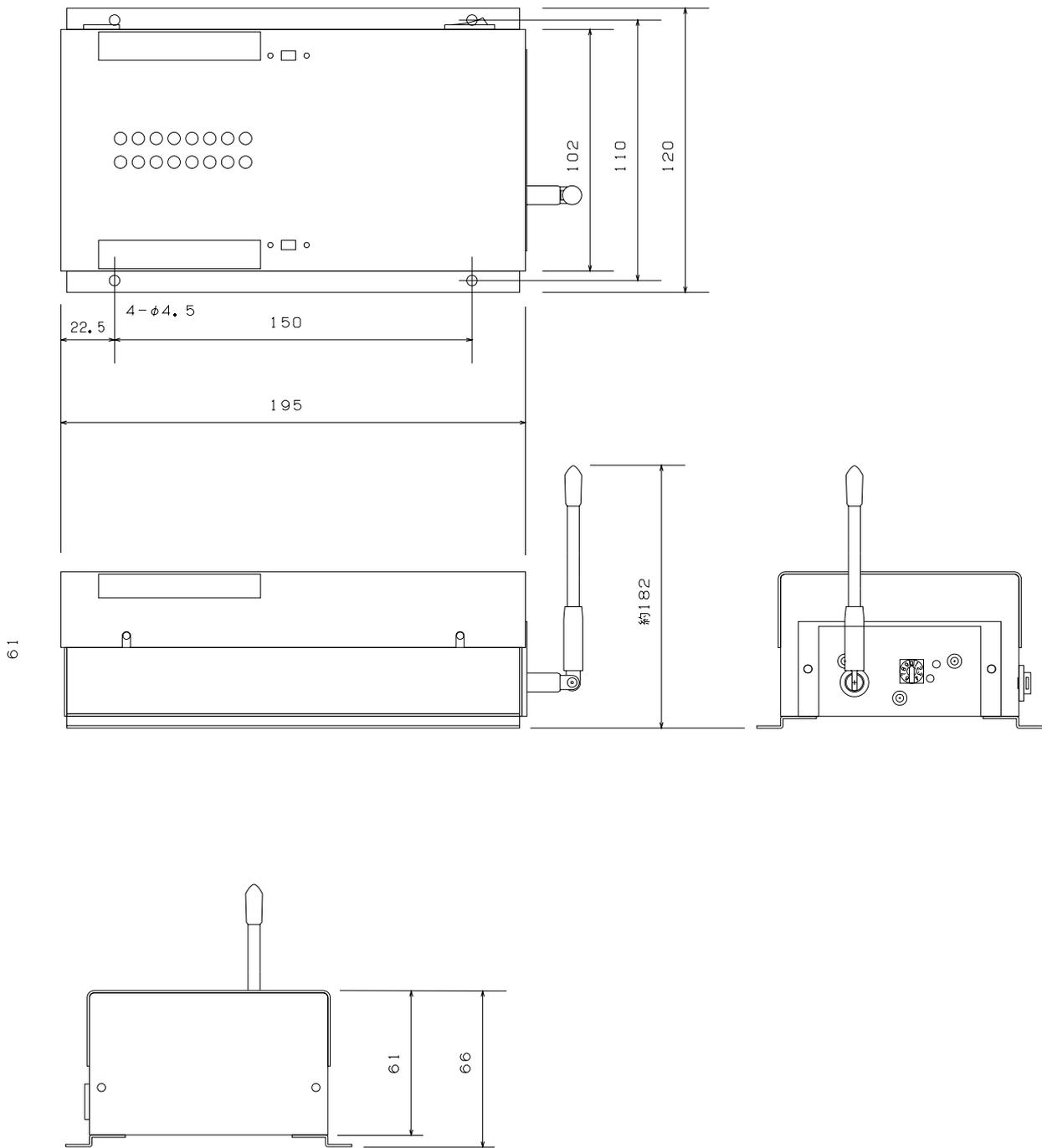
6. 寸法図

6-1. RC - 426T



寸法図 【RC - 426SW - R】

6 - 2.RC - 426SW - R



通信周波数の設定【RC - 426T】

7. 通信周波数の設定【RC - 426T】

セットでご使用の場合出荷時設定を行っておりますので通常は必要ありません

ノイズや他のセットとの電波の混信等の影響が考えられる場合、変更します(受信機共に変更)通信チャンネルは、1ch~10chまであり、ディップスイッチで設定します。

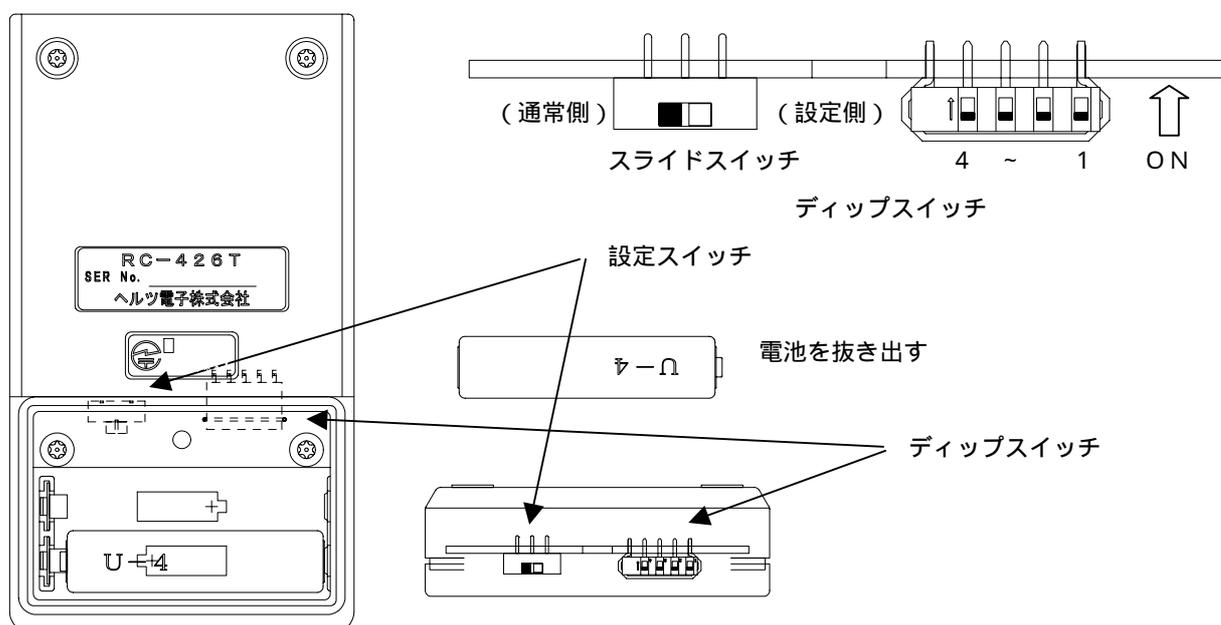
チャンネル番号と通信周波数の関係は、次表の通りです。チャンネル番号はディップスイッチで次のように設定します。

チャンネル番号	周波数 (MHz)	ディップスイッチ			
		4	3	2	1
1	426.0250				
2	426.0375				
3	426.0500				
4	426.0625				
5	426.0750				
6	426.0875				
7	426.1000				
8	426.1125				
9	426.1250				
10	426.1375				

その他の設定は総て 1チャンネル となります

ON OFF

電池ケースの蓋をあけて電池を抜き出すと4連のディップスイッチとスライドスイッチを覗くことができます。スライドスイッチは機器番号・ユニット番号の設定用ですから通常側のままにしてください。ディップスイッチのレバーは破損しやすいので注意して目打ち等先の尖ったもので動かしてください。



機器番号の設定【RC - 426T】

8. 機器番号の設定【RC - 426T】

機器番号 1～8を設定します。

出荷時設定となっていますので通常は必要ありません

電池ケースの蓋をあけて電池を抜き出すと4連のディップスイッチとスライドスイッチを覗くことができます。

使用している送信チャンネルの設定をメモしておいてください。(機器番号の設定が終わったら元のチャンネル設定に戻します)

設定スイッチを設定側(内側)にします。

設定したい機器番号の数値をディップスイッチで入れます。

電池を装填して押しボタンスイッチ を押すとピッと鳴り、しばらくして再度ピッと鳴り設定できます。(この間押し続けてください)

電池を抜いて設定スイッチを元に戻します。(外側)

ディップスイッチを元の送信チャンネルの設定に戻します。

電池を装填し電池蓋をビスで止めます。

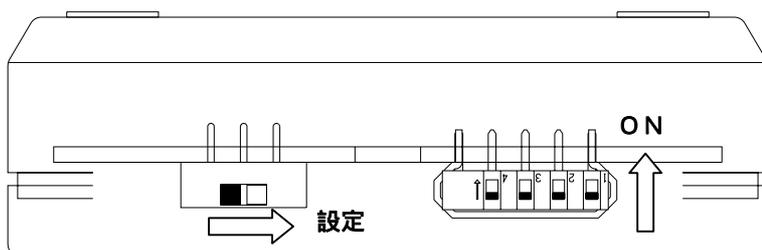
注) 間違えて設定し直す場合は一旦設定スイッチを解除しないと設定できません。

ディップスイッチの設定方法

機器番号	ディップスイッチ			
	4	3	2	1
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

ON OFF

その他の設定は総て 1番 となります



ユニット番号の設定【RC - 426T】

9. ユニット番号の設定【RC - 426T】

ユニット番号 1～8を設定します。

出荷時設定となっていますので通常は必要ありません

電池ケースの蓋をあけて電池を抜き出すと4連のディップスイッチとスライドスイッチを覗くことができます。

使用している送信チャネルの設定をメモしておいてください。(ユニット番号の設定が終わりしだい元のチャネルに戻します)

設定スイッチを設定側(内側)にします。

設定したいユニット番号の数値をディップスイッチにて設定します。

電池を装填して押しボタンスイッチを押すとピッと鳴りしばらくして再度ピッと鳴り設定できます。(この間押し続けてください)

電池を抜いて設定スイッチを元に通常側(外側)に戻します。

ディップスイッチを元の送信チャネルに戻します。

電池を装填し電池蓋をビスで止めます。

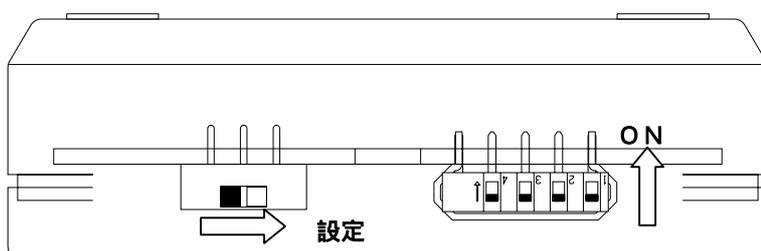
注) 設定を間違えた場合は一旦、設定スイッチを通常側に戻してから再度、設定側にしないと設定できません。

ディップスイッチの設定方法

ユニット番号	ディップスイッチ			
	4	3	2	1
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

ON OFF

その他の設定は総て 1番 となります

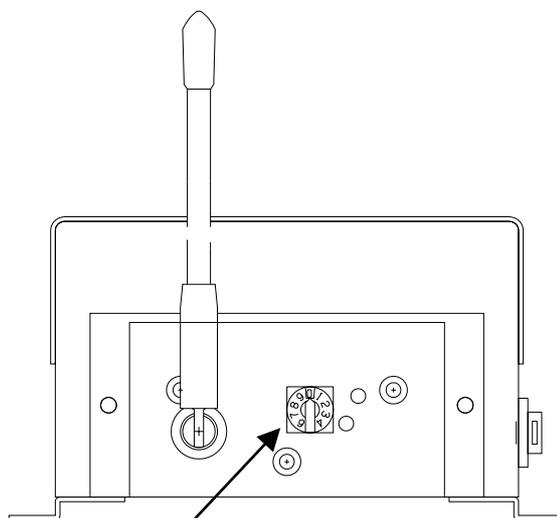


通信周波数の設定【RC - 426SW - R】

10. 通信周波数の設定【RC - 426SW - R】

設定したいチャンネル番号をロータリースイッチによりセットして電源を入れると、そのスイッチが示す数値のチャンネルに設定されます。

【受信機】



チャンネル設定用ロータリースイッチ

通信チャンネル

通信チャンネルは、1ch～10chまであり、ロータリースイッチで設定します。

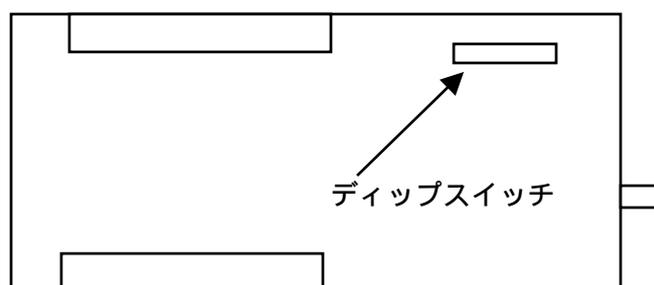
(10chを設定するには、ロータリースイッチを 0 にします。)

チャンネル番号と通信周波数の関係は、次表の通りです。

チャンネル番号	周波数 (MHz)
1	426.0250
2	426.0375
3	426.0500
4	426.0625
5	426.0750
6	426.0875
7	426.1000
8	426.1125
9	426.1250
10	426.1375

ディップスイッチの設定【RC - 426SW - R】

11. ディップスイッチの設定【RC - 426SW - R】



1) RC - 426SW - Rの動作タイプ設定

動作タイプは、受信機内部の8連ディップスイッチの7番で設定します。

動作タイプ	ディップスイッチ 7番
キーボタン 、 出力タイプ	OFF
キーボタン 出力タイプ	ON

動作仕様

・キーボタン 、 出力タイプ

送信機の 又は、 キー押下によりRC - 426SW - Rに対応する出力を約1秒間ONにします。
RC - 426SW - Rに拡張ユニットHSW - 01を2台装着することにより最大24台の送信機に対応できます。

・キーボタン 出力タイプ

送信機の キー押下によりRC - 426SW - Rに対応する出力をON、 キー押下により対応する出力をOFFにします。

RC - 426SW - Rに拡張ユニットHSW - 01を2台装着することにより最大48台の送信機に対応できます。

2) 受信データの選択設定

ディップスイッチの4番はセット番号付与スイッチです。出荷時固定です。(変更しないで下さい。)

動作タイプ	ディップスイッチ 4番
セット番号なし	OFF
セット番号あり	ON

ディップスイッチの設定【RC - 426SW - R】

3) RC - 426SW - Rのセット番号設定（通常は出荷時設定のままご使用ください）

受信データの選択で「セット番号あり」を設定した場合にセット番号を設定する必要があります。
ディップスイッチ1の1、2、3番で次表を参考に設定して下さい。

セット番号	ディップスイッチ		
	1番	2番	3番
1	OFF	OFF	OFF
2	ON	OFF	OFF
3	OFF	ON	OFF
4	ON	ON	OFF
5	OFF	OFF	ON
6	OFF	ON	ON
7	OFF	ON	ON
8	ON	ON	ON

注意) この設定値は、出荷時固定です。（変更すると受信できなくなりますのでご注意ください。）

動作説明

12. 動作説明

1) 送信機と受信機の出端子の対応

次表に送信機のユニット番号、機器番号と受信機の出端子の対応を示します。

<キーボタン、出力タイプ>

ユニット番号	機器番号	出力端子番号	
		出力端子	出力端子
1	1	受信機本体の端子 1	受信機本体の端子 9
	2	2	10
	3	3	11
	4	4	12
	5	5	13
	6	6	14
	7	7	15
	8	8	16
2	1	1台目拡張ユニットの端子 1	1台目拡張ユニットの端子 9
	2	2	10
	3	3	11
	4	4	12
	5	5	13
	6	6	14
	7	7	15
	8	8	16
3	1	2台目拡張ユニットの端子 1	2台目拡張ユニットの端子 9
	2	2	10
	3	3	11
	4	4	12
	5	5	13
	6	6	14
	7	7	15
	8	8	16

動作説明

<キーボタン 出力タイプ>

ユニット 番号	機器 番号	出力端子番号
1	1	受信機本体の端子 1
	2	2
	3	3
	4	4
	5	5
	6	6
	7	7
	8	8
2	1	9
	2	10
	3	11
	4	12
	5	13
	6	14
	7	15
	8	16
3	1	1台目拡張ユニットの端子 1
	2	2
	3	3
	4	4
	5	5
	6	6
	7	7
	8	8

ユニット 番号	機器 番号	出力端子番号
4	1	1台目拡張ユニットの端子 9
	2	10
	3	11
	4	12
	5	13
	6	14
	7	15
	8	16
5	1	2台目拡張ユニットの端子 1
	2	2
	3	3
	4	4
	5	5
	6	6
	7	7
	8	8
6	1	9
	2	10
	3	11
	4	12
	5	13
	6	14
	7	15
	8	16

動作説明

2) 動作

送信機のキー押下により送信されるコードを受信した時の受信機の動作を説明します。

<キーボタン、出力タイプ>

送信機キー	受信機出力動作
	送信機のユニット番号と機器番号に対応した出力端子を約1秒間ONします。
	送信機のユニット番号と機器番号に対応した出力端子を約1秒間ONします。
+	送信機のユニット番号と機器番号に対応したとの出力端子を約1秒間ONします。

<キーボタン 出力タイプ>

送信機キー	受信機出力動作
	送信機のユニット番号と機器番号に対応した出力端子がONします。
	送信機のユニット番号と機器番号に対応した出力端子がOFFします。
+	無効です。

出力テスト【RC - 426SW - R】

13. 出力テスト【RC - 426SW - R】

RC - 426SW - Rは、ディップスイッチの6番をONにすると出力テストをします。
端子台には何も接続していない状態でご確認下さい。

テスト状態になると、約1秒毎に

端子1、9	のみ出力 ON、	他の端子は OFF
端子2、10	のみ出力 ON、	他の端子は OFF
端子3、11	のみ出力 ON、	他の端子は OFF
端子4、12	のみ出力 ON、	他の端子は OFF
端子5、13	のみ出力 ON、	他の端子は OFF
端子6、14	のみ出力 ON、	他の端子は OFF
端子7、15	のみ出力 ON、	他の端子は OFF
端子8、16	のみ出力 ON、	他の端子は OFF

を繰り返します。このときモニターLEDに同期して出力します。

(拡張ユニットがある場合には1台目、2台目の拡張ユニットともに受信機本体に同期して出力)

テスト動作を終了するには、ディップスイッチの6番をOFFにして下さい。

受信機は、通常の動作に戻ります。

設置方法

14. 設置方法

次の事に注意して設置してください。

アンテナはできるだけ垂直に立て、金属板や電線と平行にならないようにしてください。

アンテナは、できるだけ金属板や電線から遠ざけてください。

ノイズ発生源からできるだけ離してください。

本機のアンテナと受信装置側のアンテナ間に、なるべく遮蔽物がない場所を選んで設置してください。

通信性能は、設置環境に大きく依存します。

通信が可能であることを確認の上、設置してください。

パネル等に固定して使用する場合は、取り付け金具を利用してください。

本機は、防塵／防滴構造ではありません。

設置環境に応じて防塵／防滴処理をしてください。

< 設置時の注意 >

以下のような場所に設置しないでください。

直射日光が当たる所。

湿度が非常に高い所。

テレビやラジオの近く。

モーターなど火花を飛ばすものの近く。

強い磁界を発生している所。

鉄骨や金属壁で囲まれた狭い所。

本機からの電波により、誤動作をする可能性のある装置の近く。

15. 乾電池のご使用について

1. 送信機の乾電池の交換 (受信機は電源を切るか受信しても問題のないことを確認下さい)

次の手順で交換してください。

本体下面にあるプラスチック製の乾電池ケースの蓋を外します。

内部の電池ケースに単4型乾電池を取り付けます。

この時、電池は極性を間違えないように、ずれないように装填してください。

閉める前に押しボタンを押してピッと音がすれば正常です。

電池ケースの蓋の爪を本体の溝の位置に合わせ電池ケースの蓋が勘合する位置でビスをプラスドライバーで止めて電池ケースの蓋を取り付けます。

2. 乾電池使用上の注意

長時間使用されない場合や、保管する場合は乾電池を取り外しておいてください。

キー入力時に、ブザーが鳴らない場合は乾電池が消耗していますので、新しい乾電池と交換してください。

交換する乾電池は、必ず2本とも新しい同じ種類の電池にしてください。

古い乾電池や、種類の違う乾電池を混用すると乾電池の寿命が短くなるばかりでなく、故障の原因になる恐れがあります。

注意事項

16 . 注意事項

制御盤等に組み込む場合

制御盤等に組み込む場合は、アンテナの根元が制御盤より外に出るように取付て下さい。

外部アンテナをご利用して制御盤の外にアンテナを出す時にはそのままでは取り付けられません。BNCコネクタ等の改造が必要になりますので弊社まで問い合わせ下さい。

* 危険を伴う作業でのご使用においては、弊社は責任を負い兼ねます。